

とちぎYMCA

みつかる。つながる。よくなっていく。

• NO.413 2026
• JULY

YMCA News

7



2026年7月1日発行
公益財団法人とちぎYMCA
〒321-0904
宇都宮市陽東4-18-30
TEL:028-624-2546
FAX:028-624-2489
<https://www.tochigiymca.org>
発行人/塩澤 達俊
編集人/公益財団法人とちぎYMCA



多文化防災まちあるき —それぞれの視点を、みんなの視点に—

「いつ、どこに、どうやって避難すればいいのだろう」。この問いに対する答えは、実は私たちが立っている場所や、私たちが持つ属性によって大きく異なります。先日、とちぎYMCAが指定管理を担う宇都宮市青少年活動センター（トライ東）、宇都宮市まちづくりセンター（まちぴあ）が協働して、清原地区周辺を舞台とした「多文化防災まちあるき」を実施しました。ハザードマップを手に、飛山城址周辺や近隣の避難施設を実際に歩いて調査するこの試みは、私たちに「安全」という言葉の多面性を突きつけるものとなりました。

避難という言葉聞いて、「川岸から離れた高い場所に逃げればいいだろう」「公共施設なら誰でも受け入れてもらえるだろう」と、考えていた人も多かもしれません。しかし、実際に海外にルーツを持つ人々や、異なる背景を持つ参加者と共に町を歩くと、普段見慣れたはずの景色が全く違った色を帯び始めます。町中に設置された避難所を示す看板一つとっても、それが日本語の読めない人にとってどのように映るのか、あるいは一時避難場所と指定避難所の役割の違いがどれほど周知されているのか、という現実と直面するからです。

多文化共生社会を目指す日本社会において、マジョリティ（多数派）である私たちは、無意識のうちに「日本人性」という特権を享受しています。これは、自らの文化や生活様式を「普遍的でノーマルなもの」と思い込み、その枠組みから外れる人々の困難を想像の外に置いて

てしまう、いわば「空気のような自文化中心主義」です。防災という、命に直結する課題においてさえ、私たちは知らず知らずのうちに、自分たちの視点（同心円的なパースペクティブ）だけで「安心」を定義してしまっているのかもしれない。

多文化共生社会を地域共生社会と捉えたとき、私たちが暮らす地域には海外をルーツとした人、障がいを持つ人、認知症の高齢者、不登校児童生徒など様々な方が暮らしていて、単一の困難ではなく、生活・経済・健康・人間関係など、複数の異なる問題が複雑に絡み合っている方もいます。上記の地域住民の存在を捉えたうえで、今回の「多文化防災まちあるき」では、他者の視点を通じて自らの「当たり前」を相対化していくことを目指しながら、多文化的な視座に気がつくことにありました。ある参加者は、通勤や通学の道にこれほど多くの防災看板があることに初めて気づき、それを意識して探すことが、いざという時の大きな安心につながることを学びました。これは単なる防災知識の習得ではなく、自分とは異なる状況にある誰かの視点を借りて町を見直すことで、固定化されていたマジョリティとマイノリティの関係性を融解させ、互いを地域社会を共に支える「市民」として再認識するプロセスなのです。さらには同じ清原地区だけどエリアによって高齢化率が大きく変化していることが分かり、さらにはその30年後にはそのエリアの高齢化率が高まっていくことを知り、地域の在り方を今

だけでなく未来を想像したうえで見つめていく必要があると感じた参加者もいました。

YMCAは、ヨハネによる福音書17章21節の聖句「すべてのひとを一つにしてください」をその正章に掲げる団体です。この「一つになる」とは、個性を消して同化するのではなく、それぞれの違いを認め合いながら、一つの「ポジティブネット（互いの存在や個性を認め合い、前向きな気持ちで高め合える人のつながり）」を編み上げていくことを意味します。災害という極限状態において、「自助」「共助」「互助」「公助」が重要です。そしてそれらを支えるのは、平時からどれだけ他者の「痛み」や「視点」に想像力を働かせ、地域住民の関係という土台を築いていくことが大切だと考えます。

国籍や属性というラベルを超え、同じ「地球」という大地に生きる住民として、この町に暮らすすべての人の尊厳が守られ、安心して自分らしく暮らし続けられる豊かなコミュニティの実現を目指して、とちぎYMCAはこれからも地域社会の共助の一員として、希望の種をまき続けていきたいです。

多文化防災まちあるき実行委員会

とちぎYMCAの使命

～みつかる。つながる。よくなっていく。～

2026年度 とちぎYMCA年間聖句

「平和をつくる人は幸いである」

新約聖書 マタイによる福音書 第5章9節
《山上の重訓 幸いの言葉》より



さくらんぼ幼稚園 楽しい遠足

年長組の遠足は、那須どうぶつ王国に行ってきました。

遠足に行く前から、クラスみんなでどんな動物がいるのかを図鑑で見つけたり、マップを見ながらどこに行きたいかを友だちと話し合ったりと、当日をとっても楽しみにしていることが伝わりました。

当日もワクワクしながら園内を見回り、たくさんの動物を見ることが出来ました。事前に調べた動物を見つけると嬉しそうに目を輝かせながら観察していました。特にみんなが注目していたのはハシビロコウです。見つけた瞬間から「ボンゴー！」と名前を呼びハシビロコウも嬉しそうでした。

帰る時間になると「まだ帰りたくない」「もっと見たい」と子どもたちは話しており、名残惜しそうにしていました。友だちと一緒にたくさんの発見をしながら過ごした、思い出に残る楽しい遠足となりました。



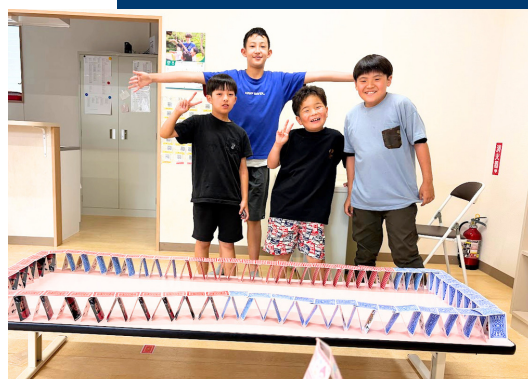
上戸祭小 子どもの家「上戸クラブ」 夏に向けて

上戸クラブは、1年生40名を迎え入れ、計160名にとぎやかな学童になりました。

1年生も新しい生活に慣れ、宿題が始まりました。上戸クラブは、外遊びが大好きな子どもが多いため、宿題が終わるとほとんどの子どもが外へ遊びに行きます。ドッジボールや鬼ごっこでは、学年問わず仲良く遊んでいます。これからは暑い季節になるため、体育館を活用した身体を動かす場所の確保に向けて、支援員は試行錯誤を重ねています。

子どもたちにとって、安心して過ごせるよう見守っていききたいと思います。また、保護者の方との連携も大切にしていきたいです。そして、学童生活が楽しかったと思ってもらえるよう、子ども1人1人と向き合っていきたいと思います。

上戸クラブ 主任支援員 平井優妃



ようとう保育園 2026年度運動会(2歳児～5歳児クラス)

5月30日にトライ東にて、運動会が行われました。今年度は暑さを考慮し、時期を前倒しにしての開催となりましたが、例年通り素敵な演目に、期待感を膨らませながら準備を進めることができました。

『みんなでつくろう 笑顔の花咲く 運動会』をスローガンとして掲げ、練習を始めました。当日は、自分のクラス以外のダンスも、音楽がかかると一緒に体を動かしリズムに乗ることを楽しんだり、リレーでは最後までバトンを繋いだりする姿に会場は盛り上がりました。また、幼児組全員参加の玉入れでは、年長児が年下の子をリードしながら競技を楽しむ姿に頼もしさを感じました。年少児は初めて保護者のもとを離れて参加するため、日々の活動を取り入れた演目を行いました。簡単なルールを守りながら、体を動かして楽しむことができていました。

子どもたちの「またやりたい！」という声に寄り添いながら、今後も異年齢交流を深めていきたいと思います。進級後、間もない行事でしたが、しっかり取り組む姿を見せてくれた子どもたち。今年度の成長に期待します。共に汗を流していただきました保護者の皆さまには、感謝申し上げます。



宇都宮市まちづくりセンターまちびあ まちびあラボ おでんで広がる学びの場を開催しました！

2026年6月5日(金)、宇都宮市まちづくりセンターまちびあにて、まちびあラボ「おでんでつながる学びの場」第1回『若者が地域の一員となるには』を開催しました。

まちびあラボは、おでんを囲みながら、市民活動団体やNPO法人、企業などで活躍する方のお話を聞き、参加者同士が交流できる学びとつながりの場です。

第1回のおでん店主(講師)には、認定NPO法人 とちぎユースサポーターズネットワークの代表理事である 岩井俊宗氏をお迎えし、若者が地域と関わる意義や、地域側に求められる受け入れの工夫、実際に若者が感じている思いなどについてお話しいただきました。

当日は風が冷たく、肌寒い中での開催となりましたが、温かいおでんを囲みながらの交流で、会場は終始和やかな雰囲気になりました。

まちびあラボでは、今後も地域で活動するさまざまな方々をゲストに迎え、参加者同士が気軽につながり、学び合える場をつくっていきます。皆様のご参加お待ちしております。



【報告】第545回 早天祈祷会 ～アメリカからのゲストをお迎えして～

6月1日に開催された「第545回 早天祈祷会」は、アメリカ・ウィスコンシン州から来日されたリチャードさんとクリスティーノさんをお迎えし、恵み豊かな時間となりました。日本滞在の最終日の朝、お二人はこれまでの旅を振り返り、私たちが日頃見過ごしがちな日本の姿について、新鮮な視点からお話をしてくださいました。

～讃美歌と聖書～

聖句：使徒言行録 17章 26-27節

讃美歌：『Beautiful Savior』（うるわしき救い主）

お二人は、日本の「無印良品」の店内でこの讃美歌が流れていたことに大変驚かれたそうです。日常の意外な場所で神さまの存在を感じる、素敵なエピソードを分かち合ってくださいました。

～日本での思い出と文化への驚き～

滞在中はお二人の良き友人である山之内さんとの再会により、清水寺、日光、益子といった歴史ある名所を観光されました。また、各地の神社や寺院、酒蔵などにも足を運ばれ、日本の伝統文化を肌で感じられたとのこと。その中で、多くのお寺や神社でお札やお守りが販売されている光景に、文化的な驚きを覚えたと言われていました。

～ゲストからのメッセージ：日本への祈り～

お二人は日本の印象について、このように語ってくださいました。

「日本のみなさんは本当に親切で、自然を深く愛しています。しかし、その一方で、まだ本当の『神さま』に出会っていないようにも感じました。」そして最後に、「ぜひこの早天祈祷会に集うみなさんが、それぞれの場所で神さまの愛と福音を広めていってくださることを期待しています。」と、心強い励ましのメッセージを託してくださいました。

国境を越えた信仰の交わりが与えられたことに感謝し、お二人のこれからの歩みと、とちぎYMCAが地域に『愛と奉仕』の精神を広げていく活動のために、引き続き共に祈りしていきましょう。



(参加者：リチャード、クリスティーノ、山之内、李、鳴澤、久保、山田、唐沢、菅井、松本、濱塚、塩澤、平山、岡野、藤生 ※敬称略 / 記録：松本)

国際協力募金活動「カレーの日」を開催しました！

6月13日(土)、さくらんぼ幼稚園にて国際協力募金活動の一環として「カレーの日」を開催しました。

カレーの日のカレーは、日本でよく食べられているカレーとは少し違い、さまざまなスパイスを使った特製カレーです。辛めの大人用と辛さを抑えた子ども用の2種類を用意し、多くの皆さまに召し上がっていただきました。

前日の大量の玉ねぎ切りや当日の準備には、ボランティアの皆さまが力を貸してくださいました。おかげさまで、おいしいカレーをたくさんの方にお届けすることができました。

キッチンスタッフとして特にうれしかったのは、なんと「残飯ゼロ」だったことです！たくさんの方がおいしく食べてくださったことが伝わり、私たちにとっても大きな喜びとなりました。

また、デザートとして販売したフルーツパウンドケーキやスナックをお土産にくださる方もいらっしゃいました。さらに、今回はガチャポンも登場し、子どもたちに大人気でした。デザートとガチャポンの売上も募金に加えさせていただきました。

皆さまのご協力により、収益金は **25,651円** となり、とちぎYMCA国際協力募金へ寄付いたしました。

ご来場くださった皆さま、ご寄付やボランティアでご協力くださった皆さま、本当にありがとうございます。

【ご寄付（お米・ミニトマト・スナック）】

川村様、山下様

【ボランティア(6月12日・13日)】

川村様、山下様、小井土様、藤生様

とちぎYMCA国際協力募金詳細は
こちらから→



とちぎYMCA国際協力募金は、一人ひとりのいのちが大切にされる「ポジティブネット」のある豊かな社会を目指しています。とちぎYMCAで預かりした募金は、以下のような支援のために使われます。

1. フィリピンの学生への奨学金

- ・タラHRCF高校生・大学生への奨学金
- ・ナボタス大学生支援

2. 日本YMCA同盟を通して、世界のYMCAの活動支援

- ・ウクライナ避難者支援活動
- ・アジアのYMCA支援
- ・緊急災害支援

3. とちぎYMCAの国際プログラムに参加する学生への奨学金

4. 国際理解プログラム など

これからも温かいご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。



不登校の子どもたちと
その家族を応援しよう

学校の外の文化祭を開催しました！

6月21日（日）、トライ東とまちびあの協働プログラムで学校に行かない、いけない子どもたちのための「学校の外の文化祭」を開催いたしました。普段フリースクール等で子どもたちを支援する方々や地域の皆さまと協力して企画・運営し、当日は約96名の方々にご来場いただきました。

会場では、竹工作や打楽器教室、ネイル体験、ハーバリウム作りなどの多彩な体験ブースのほか、カレーやかき氷などの飲食販売も行われ、終始にぎやかな雰囲気になりました。親子での参加も多く、保護者同士が自然に交流を深める場となりました。

昨年度から3か月おきに実施し、今回で6回目の開催となりましたが、毎回参加してくれている子どもの姿もあり、本イベントが子どもたちにとって大切な「自分の居場所」になっていることを実感できる大変意義深い一日となりました。ご協力いただいた関係団体やボランティア、ご来場いただいた皆さまに心より感謝申し上げます。

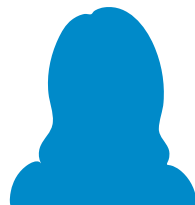
参加者の声



何組かの親子連れの方とはじめましてのご挨拶をさせていただきました。普段の茶話会にはなかなか行くのに勇気がある事と日程が合わず…なのですが、こういう楽しそうなイベントがあると学校に行けない子どもも一緒に来れて、初参加ですがとても居心地が良く皆さん優しく楽しかったです。

同じような悩みをもつ、もしくは経験してきたお母さんたちとの繋がりが持ててよかったです。

学校の外の文化祭がきっかけで、今後その子たちが友だちになれたとしたら…きっとまだ小学生ですが高校生…その先にも励まし合える友達になる可能性もあるので（家にずっといると友だちを作るのはとてもハードルが高いので）良いきっかけになれたと感じています。



とちぎYMCA 維持会員・法人会員

募集中

現在の《とちぎYMCA》は、社会の資金で賄われる制度事業の“外側”に新しい活動”を拡げております。

官と民間の活動をあわせもつYMCAですが、みなさまからの貴重な寄付によって、フレキシブルで、創造的で、ボランティアな部分を表現する最もYMCAらしい活動を継続することができます。みなさまのお支えによって続けられますことに感謝申し上げます。

【新規申込み方法】

- ☐ お電話（028-624-2546）資料をお送りいたします。
- ☐ ホームページより（QRコード）
- ☐ 各YMCA 事務所に

【継続申し込み】

- 維持会員費をお支払いください。
- ☐ ホームページより（QRコード）
- ☐ 各YMCA 事務所に



希望ある豊かな社会に。
平和を実現していくチカラに。
「よくなる」連鎖をYMCAと。